

講義名	教養特講Ⅰ（役場からはじまる地方再生）		
科目区分	教養特講		
担当教員	川崎 浩二郎		
開講期・曜日・時限	前期 木曜日 5時限	授業形態	
	2020年度 人間社会学部 人間健康学科/2020年度 人間社会学部 観光学科/2020年度 人間社会学部 人間社会学科/2020年度 経済学部 経済情報学科/2020年度 経済学部 経済学科/2020年度 商学部 マーケティング学科/2020年度 商学部 経営学科		
履修開始年次	1年生	単位数	2
備考			

主題と概要
<p>日本の地方自治制度は、都道府県と市町村という2層構造が基本となっていますが、現在急速に進行している人口減少・少子高齢化という社会情勢のなかで、地域を支えるコミュニティの崩壊が懸念されています。こうしたなかで、もう一度地域に活力を取り戻す地方再生の重要な取組みとして、ひとつの自治体の枠を超えた広域的な連携（広域行政）に注目が集まっています。</p> <p>本講では、今後地方公務員をめざそうとする学生や、行政のなかでもとくに地方行政の仕組みを学びたいと思っている学生を対象に、地方自治制度の基本的な仕組みを理解してもらおうとともに、これからの地方行政の最大の課題のひとつである広域行政についての基礎的な知識、自分なりの視点を持ってもらうことを目的とします。</p>

到達目標
<ul style="list-style-type: none"> 現在の地方自治制度の基本的な仕組みを理解してもらいます。 これからの地方行政の最大の課題のひとつである広域行政についての基礎的な知識、自分なりの視点を持ってもらいます。

提出課題
<ul style="list-style-type: none"> 定期試験は行わず、授業に対する理解度を確認するものとして、中間と期末の2回のレポート提出を求めます。 中間レポートの課題提示は概ね6月初旬頃、期末レポートの課題提示は概ね7月初旬頃を予定しています。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバック
<ul style="list-style-type: none"> レポートの課題提示は、大学のポータルサイトで行いますが、同時に授業でもペーパーを配付して、課題の趣旨・論点、レポート作成上の留意点等について説明を行います。 中間レポートについては、事後総括的な講評等（個人名は出さない）を行うことによって、論点の整理、レポート作成技術の向上を図りたいと思います。

評価の基準
<ul style="list-style-type: none"> 評価は、2回のレポート、出席状況、及び授業中の態度に基づいて行います。 レポートは、2回とも必ず提出することを最低条件とします。そのうえで、基礎的な理解ができているか、自分なりの意見が表現されているかによって評価します。また、レポート作成上の基本的なルールが守られているかも考慮します。 出席は重視しますので、可能なかぎり出席するようにしてください。 途中入室・退室、私語など授業中の態度に問題がある場合は、その程度に応じて減点対象とします。

履修にあたっての注意・助言他
<ul style="list-style-type: none"> 都道府県や市町村による行政活動は、その時々々の政治経済情勢等に応じて常に変化しています。そうしたダイナミックな面に触れてもらうため、時事問題もできるだけ多く取り上げたいと思っているので、世の中の動きに注意を払うように心がけてください。 また、これに伴って適宜授業計画を変更することがあります。

教科書
<ul style="list-style-type: none"> 使用しない。

プリント資料及び参考文献
<ul style="list-style-type: none"> 授業は、主としてパワーポイントを用いています。これに伴い、プレゼンテーションに対応した資料を配付します。 時事問題を取り上げる場合は、関係する新聞記事等を配付して行います。 テキストは用いませんが、目を通してほしい参考文献は適宜紹介します。

授業計画
<ol style="list-style-type: none"> 1 中央と地方のとらえ方 2 地方自治制度の成立 3 国と地方の役割分担 4 地方自治体の種類 5 地方自治体の首長と議会 6 地方公務員の種類と仕事上のルール 7 地方財政 8 地方を取り巻く社会情勢の変化～地方のコミュニティ崩壊～ 9 地方の課題、都市の課題 10 国計計画 11 広域行政～自治体の枠を超えた広域的な取組み～ 12 市町村合併 13 広域連合 14 地方創生の取組み 15 これからの地方行政に求められるもの

授業形態（アクティブ・ラーニング）
<ul style="list-style-type: none"> ア：PBL（課題解決型学習） イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態） ウ：ディスカッション、ディベート エ：グループワーク オ：プレゼンテーション カ：実習、フィールドワーク

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間
<ul style="list-style-type: none"> 常に何か論点になっているかを意識し、それに対して自分なりの意見が持てるような学習態度で臨むようにしてください。 毎回の授業の最後に、次回の授業のテーマを簡単にコメントしますので、その内容についてどのような媒体でもいいので、一度検索してみてください。 復習としては、その日のうちに再度プレゼンテーション対応資料等に目通しておく習慣を身に着ける努力をしてください。 予習30分、復習1時間が目安です。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

実務経験の有無及び活用
<p>「実務経験あり」 県職員として総務・財政・教育等の分野を担当、また市役所へ出向し平成大合併に伴う行政改革を担当した経験を活かして、公務員に求められる資質・能力、仕事に取り組み姿勢（マインド）、これからの行政に求められる課題等について伝えていきたいと思えます。</p>

備考